

よういざいとう

 台東區

F
堀口製作所
和風引戸金具

オリジナルの招き猫をいっぱい作っています。“運勢上向きの招き猫”“西にきいろの金運招き猫”どの子もみんな違う幸せ顔の猫達です。

言問通りから不忍通りを抜け本郷へ上る坂を「弥生坂」といい、明治5年に町屋が開かれ向ヶ岡弥生町と名付けられました。そこへ新しい坂道が拓かれ、町名をとって弥生坂が生まれました。この坂下にも幕府鉄砲組の射撃場があったので「鉄砲坂」とも呼ばれたそうです。この付近は弥生式土器が発掘された地であり、坂の北側一帯は旧制第一高等学校の所在地です。

名前の由来は、坂の近くに団子を売る茶店があったことからといわれています。この団子坂には「潮見坂」、「千駄木坂」、「七面坂」の別名がいくつもあります。潮見坂は坂上より佃の海が見えたので潮見坂、千駄木坂は千駄木御林跡の側にあったことから、七面坂は七面堂が団子坂下にあったことからといわれています。この坂の上には森鶴翁の旧居として有名な観潮楼がありました。

芋坂の名前は、かつて江戸時代から谷中で自然薯が多く獲れたので、親しみを込めて土地の人が自然に「芋坂」と呼ぶようになったといわれています。芋坂は彰義隊が敗れ、この坂を下って四方に逃げたといわれています。

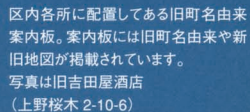
路地の迷路に入ったようなところに急に狭い階段の坂があります。この階段が何段あるかを当てて遊んだ子供が、段差が低いので数を間違えるので「お化け階段」の名が付いたともいわれ、またこの階段の坂は人通りが少なく、木が茂って気味が悪いのでお化けが出るのではないかということからもこの名が付いたといわれています。

この坂の前に日蓮宗延命院という寺があり、その境内に七面堂があったことから、これに因んで名付けられたといわれています。七面堂は甲斐身延山久遠寺西方七面山から勧請した日蓮宗の守護神七面天女を祀る堂です。

「谷中」の地名は、上野台と本郷台の間の谷に位置していたことに由来し、江戸時代以前から呼ばれていた名称です。
 このように、地名や町名は単なる地名ではなく、当時の地形や歴史、文化を示す無形の財産であります。

しかし、住居表示の実施により地図上から姿を消した旧町名もありませんが、町名・地名の由来を振り返ること、昔の風景や人々の生活を垣間見ることができます。

町名・地名の歴史を紐解き、昔の街並みを楽しみながら散策をすれば、一味違った楽しみ方ができるかも知れません。



D 赤塚べつ甲
製作所

【住所】台東区中1-6-17（東京メトロ千代田線根岸駅1番出口徒歩5分）
 【電話】03(3827)1907
 【見学内容】日本画を描いているところをご覧いただけます。
 【営業時間】随時（定休日）日曜日
 画 学 要予約
 【URL】<http://www.allanwest.jp>
 日本画家のアルヴィン・ウェストが、屏風絵や掛軸などを制作しています。天気の良い日、全国的に晴れわたる中、ウェストが「創作過程を公開する」とのことです。第1次、第2次と作品も順次展示されています。作品や画家など正確な情報おしよげたこととできません。画材の買い付け先地方への出張で留守にすることもありえます。ぜひ事前約をお願いします。

不忍通知から本郷に上る坂道です。根津神社の裏門の坂
 ので「根津裏門坂」といいます。根津神社は五代将軍徳川
 家が世継の綱鑑（六代家宣）の産土神として創建したもので、
 権現造りで華麗な建物は国の重要文化財に指定されていま
 います。現在の所在は、団子坂北の元根津から遷座したものです。
 団子坂上の日本医科大学の西櫓を曲がった同大学図書館
 会館の地に、夏目漱石の住んだ家「猫の家」がありました。また、
 漱石が入居する11年前には同家に森鷗外が住んでいたとの
 記録もあり、日本語にゆかりの深い場所です。

JR日暮里駅から御殿坂を上っていき下る階段が見えます。その手前の左側には「夕焼けだんだん」の標識があります。西(夕陽)に向かって階段を下りたところが谷中銀座です。谷中在住の森まゆみさんが「夕焼けだんだん」と名付けられたそうです。その名の通り、夕焼けが素晴らしいところです。

横津から藍染大通りへ入っていると旧町名 谷中真島町にかかります。このあたりは明治末から昭和にかけて渡辺治右衛門という銀行家の広大な邸がありました。もとは明石屋治右衛門という兵庫県明石の出身の方のご子孫です。この明石が「あかし」となっています。大通りから邸宅まで馬車で入るのに門前の道を広く造ったといわれています。

明治時代、坂上に東京大学のお雇い外国人の官舎があり、ここに住む外国人が坂を下って不忍池や上野公園を散策したといわれています。当時の土地の人々は、外国人が珍しかったせいでしょか、この名が付きました。この中には有名なベルツ医学博士（ドイツ人）もあり、東京医学校（現 東京大学医学部）の教師として日本の近代医学の発展に貢献しました。

浦志摩守下屋敷のて根津方面へ下る坂だったため「三浦坂」と呼ばれました。三浦氏は美作国（現 岡山県の一部）真島郡勝山藩2万三千石の藩主で、勝山藩は幕末慶応の頃、藩名を真島藩と改めました。明治初ら昭和42年まで、この三浦坂西側の一帯を谷中真島町といいました。坂道とともに町名の由来にも三浦家下屋敷は関係が深かったといえます。

B
幸村 和服縫製

住所) 台東区谷中3-2-6 (東京メトロ千代田線千駄木駅徒歩1分)
 電話) 03(3821) 1837
 見学内容) 指人形頭部と手の製作・着色・着物の縫いつく
 営業時間) 10:00～18:00
 休 日) 月・火・水曜日 (臨時休業有り)
 入 場 料) 要予約
 URL) <http://www.tctv.net/jp/taito21/shoukichi-fansite/>
 谷中の自宅兼アトリエのショーウィンドウに常設で30体以上の指人形が展示されている。土・日曜日を中心にアトリエ内に展示している指人形の見学者、人形制作パフォーマンスを観覧できます。事前に御連絡頂くと、平日でも見学可能です。

日暮里駅北口前の道で、台東区と荒川区の堺の道「御殿坂」の大半が消滅したため、その名残である坂の上部部分をこう呼ぶようになりました。その他由来に、俗に御殿敷(寛永寺輪王寺宮の隠所)のこの先にあったからともなっていますが、根拠は定かではありません。



平日暮里駅北口より線路沿いに天王寺を見て、谷中霊園へと上ってゆく坂道です。坂の北側は崖になっています。別名「幸庵坂」といいますが、その由来は不明です。昔、このあたりの紅葉が美しかったから名付けられたと考えられています。



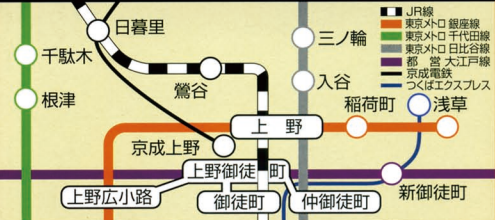
江戸時代に藍染川が流れており、それに沿った所に蜜の
名所がありました。宗林寺の前通りにかけて小川があり「蜜
」と呼ばれ、それに因んで「蜜塚」と名付けられました。宗
林寺は萩寺ともいわれ萩の名所として知られていました。
宗林寺の前通りは江戸時代より六阿弥を巡る道となっ
ており、道には六阿弥院の小さい碑が建っています。



三崎坂を挟んで谷戸の両面に谷中小学校に沿って上る坂が三崎坂です。「三崎」は「さんざき」と読みます。駒込、三崎、谷中の3つの高台に由来するといわれています。この坂は「首ふり坂」の別名があり、かつて付近に住む僧侶が首を振りながらこの坂を歩いたことから、この名が付いたといわれています。旧藍染川筋のよみせ通りと交差するところに「批把橋路」の標識があります。



TRAFFIC ACCESS



<http://www.city.taito.tokyo.jp>

協力／台東区観光ボランティア・ガイド

